

デジタルハリウッド大学大学院 専門職大学院としての特徴

Digital Hollywood University Graduate School: Features as a Professional Graduate School

池谷 和浩
Kazuhiro Iketani

デジタルハリウッド大学
大学院 事務局長
産学官連携センター 事務局長

今回第2号を発刊する『DHU JOURNAL – デジタルハリウッド大学 紀要』(以下、本紀要)は本学の研究開発活動の成果を発信し、産業や社会への貢献につながる提案を行うために2014年度に創刊された。本稿では、本紀要における発信・提案の中心的な取り組みを担い、産学官協同による研究推進および技術移転を行っている「デジタルハリウッド大学大学院」(以下、本大学院)について、専門職大学院としての特徴の観点から述べる。

背景

専門職大学院制度は、高度専門職業人の養成を目的として2003年度に創設された。この制度は、社会的・国際的な活躍のできる人材の養成に特化した課程を備えることを定めており、理論と実務を架橋した教育を行うことを基本として、科学技術の進展や社会・経済のグローバル化に伴う人材ニーズへの求めに応えようとするものである。

専門職大学院では、特定の職業分野に応じた柔軟で実践的な教育を行うべく、少人数教育・双方向的授業などの実践的な教育方法をとること、研究指導員・論文審査を必須としないこと、現場経験のある実務家教員の一定割合以上の配置などが制度上定められており、法曹、会計、ビジネスなどの様々な領域で人材育成が行われている。

本学の設置

本学は日本で初めての株式会社立専門職大学院である。文部科学省が2004年2月16日に、構造改革特区制度を利用して株式会社が設置する大学大学院の開設を認可したことにより誕生した。デジタルハリウッド大学の研究科として位置づけられ、実践的な教育研究を行い、産学官連携センターおよびメディアサイエンス研究所の活動の中心的な研究者および教職員を擁する機関として運営されている。

特徴

本大学院は、主にICT・コンテンツ関連分野における高度専門職業人の育成を目指し設置された。専門職大学院制度の定めに沿いながら、下記のような特徴を有している。

(1) 実務家中心の教員組織

変化の激しいICT・コンテンツ関連分野の実務に身を置き、経験や実績を整理・体系化し還元することで社会に貢献しよう

とする高い志をもつ実務家が教員の9割以上を占め、教学にあたっている。

(2) ビジネス、クリエイティブ、ICTの3分野を融合した教育課程

新たな価値を創造できる人材の育成のために、デジタル時代のビジネスプランニングと実装に不可欠なクリエイティブ、ICTの分野を複眼的に捉え融合するカリキュラムを編成し、特に教育研究成果の集大成である修了課題制作においては3分野それぞれの教員から指導を受けることが必須となっている。

(3) 積極的なファカルティ・ディベロップメント(教員の指導能力開発)活動

毎回授業が終了するごとに、学生がその日の授業を評価する「エヴァリュエーションシート」(以下、ES)を導入し、授業の質の向上に努めている。ESには学生からの授業運営に関する提案や質問が含まれており、教職員は次の授業日にフィードバックを行う。

(4) 職員による大学運営の推進

株式会社立大学院である本大学院では、職員の業務は教務的な管理に留まらず、カリキュラム開発、企画運営、施策の実行・評価に深く関わっている。学長及び事務局長が教授会、設置会社の経営会議双方の構成員となっており、教学と経営の均衡を保つ役割も担っている。

今後の役割

制度開始から10年以上が経った今、専門職大学院が日々変化していく社会のニーズに対応し、近未来の社会を担う高度専門職業人の養成を続けるためには、各領域で関連する産学官の団体との連携を図りながら実績を増やしつつ、学校教育法に掲げられる一校校として経済的にも品質的にも安定した運営を行うことが求められている。

本大学院は、今年経済産業省が発表した調査で、「大学発ベンチャー創出数」で全国14位となった。私立大学では早稲田、慶應義塾に次いで3位の実績であり、専門職大学院としてICT・コンテンツ関連分野における高度専門職業人を育成し、産業・社会に新しい価値を生み出すための取り組みが奏功し始めている。